

ものらず、すでに世の中から忘れ去られている、このような方々がいたということここに記して、せめて仏の追善供養にしたいと筆をとりました。

合掌

(仏国寺住職『投稿』)

※山梨医学専門学校

戦時中の医師不足の対策として各地に設けられた医学専門学校で、山梨県では青沼にあった旧甲府商業学校廃校舎に山梨医学

千塚の咳婆地蔵とあげ仏さん

窪田 翁

昭和一七年、市に合併された当時の千塚村について、「山梨県町村合併誌」(昭和四六年刊)には次のようにある。

千塚村

本村は旧北山筋に属する千塚・塩部両村の地である。明治五年一月山梨郡第六区に編入せられ、同九年十月山梨県第四区に改編された。明治十三年三月大宮村と連合し、同十八年六月には更に千代田村をも加えて三村連合となった。明治廿

二年町村制施行に当り、同年六月千代田村は分離して独立、翌七月塩部村と合併、大宮村との組合は従来そのまま、千塚村二カ村組合となった。

これによれば、千塚村外二カ村組合が、市に合併されたのであるが、これと同時に、甲府市告示第二十八号(昭和一七年)によって、旧千塚村は、その大字であった塩部が塩部町に、大字千塚は千塚町に、また、大宮村の大字であった山宮・羽黒・湯

村は、それぞれ山宮町・羽黒町・湯村町と改称された。

その後、地方自治法第二百六十条第一項にもとづいて、各地で新町名とその区域が定められたが、千塚町についていえば、昭和四四年および四五年、その町名と区域とは、千塚一丁目から千塚五丁目と定められ、現在に至っている。

さて、その千塚四丁目に、現在には咳婆地蔵と呼ばれる地蔵が祀られている。千塚四ツ角から北へ約二百メートル、「攀桂寺入口」とある標識のところを左折して数十メートル、道の右側の古びた小屋に、それは安置されている。

この地蔵については、古く「西山梨郡志」(大正一五年刊)に、

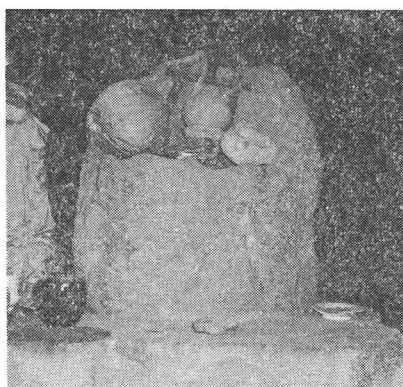
千塚村橋場の四つ辻を一町程南に入ると西側に高さ尺余、周囲八尺位の石が地上に立つてゐる。何時の代からか咳婆さんと呼ばれて、咳殊に百日咳に苦しむ者は、全治した時飴を奉納する事を約して祈願すれば効験著しいと謂はれてゐる。尚お茶好き婆さんとも謂ひ、里人はよく茶をあげてゐる。

とあるが、往時をよく知っている窪田はる

の（一八九二＝明治二五年千塚に生まれる）さんに聞いた話でも、咳に苦しむとすぐにお参りに行き、後で、お札に飴などを供えたということである。

その咳婆さんは、道路の拡張のため移転を余儀なくされ、一帯を「お薬師さん」と呼ばれている現在地に移され、名称も前記のように「咳婆地蔵」と変わり、三体の薬師地蔵尊とともに祀られることになったのである。

なお、その「咳婆さん」については、『甲府ミニ散歩』Vol. 2（昭和六〇年発行）にも次のようにある。



石 婆 地 蔵

昔、一人の老婆が村はずれに倒れていた。村人は気の毒に思い、その老婆を助けた。元氣になった老婆は、助けてくれたお札にと、咳で苦しむ子供達の病氣を治した。その頃、咳は一番怖ろしい病氣で死亡する人も多かったことから不治の病といわれて、人々から恐れられていた。その咳の病氣を治した老婆も、歳には勝てず、死んでしまった。

村人は、村の守り神として、石を立てて祀った。

それからというもの、村人達は、咳の病氣にかかると、このお咳婆さんに願掛けするようになった。病氣が治ると老婆の好物だったアメを供えた。

この石は、攀桂寺（千塚四丁目）の東にあり、今でもアメが供えられている。

これを思うに、右にいう「老婆が村はずれに倒れていた」というところは、話の中でも重要な点である。「村はずれ」とは、逆にいえば「村の入口」のことでもあって、そこに結局「村の守り神として石を立てて祀った」というのは、そこから村内に災厄が入るのを防ぎたいとの深層心理の現われとも見ることができるからである。

また、「咳」と「アメ」とのつながりは、今でも考えられる自然な筋であろう。

このような意味をもつ「咳婆さん」的民間信仰は、「山梨県総合郷土研究」（昭和一年刊）によれば、甲府市山田町、東山梨郡日下部・玉宮、西山梨郡相川などにも見られる由である。

ついでながら、同じ千塚四丁目、「咳婆地蔵」から西北約百メートルの、民家に囲まれた空地の一隅に、「あげ仏さん」と呼ばれる石が祀られている。前記窪田はるのさんの伝えるところでは、何かの願いごとがあるとき、この石を持ち上げてみて、もし軽々と持ち上げることができれば、その願いは必ずかなえられ、お参りする人も多かったという。この石も、「咳婆地蔵」と同じく、トタン屋根の古びた小屋に安置されている。

この「あげ仏」的信仰も、東山梨郡塩山・日下部・勝沼・山村・諏訪、西山梨郡相川、東八代郡石和などにも伝えられていると、前掲「山梨県総合郷土研究」に紹介されている。

（甲府市経済部長・前市史編さん委員）